

No.14 「地球環境問題 6つのステップ-1」

環境汚染は20世紀後半から、一部企業と被害住民という構図の局地的な公害から始まり、僅か半世紀程度で地球規模の環境汚染に広がった。現在、この被害者は人類を含む全地球生態系であり、加害者は人類（経済活動）である。それ故に、これを解決するためには幾つかの困難な問題が存在している。

第1に最も被害をうけるのは、現在の経済活動によって物質的恩恵を受けている世代ではなく、次世代を初め、未だ生まれていない孫子の世代である。従って、我々、現世代の人間は概念的に地球環境の悪化について認識していても、防止のための日常的な行動にまで高めていくことがなかなか困難である。

第2に現代社会の支配層は大量消費文明によって利益を得ている勢力であり、この抵抗に抗して新しい循環型文明を創ることは難しい。更に、現存する世代全てが市場経済社会の中で生活しているため、この問題に真剣に対処しようとするれば、現実生活と将来あるべき生活との間で、ある種の自己矛盾に直面することになる。

地球環境問題は地球生態系の許容量内で、持続的に生存できる新しい文明—循環型社会を構築しなければ最終的には解決しない。この問題は「自然科学と社会科学とを一気横なぐりに融合させてしまう動機を持っており、しかも何らかのかたちで政策立案と結びつかざるをえないものであるため、研究成果の立体的、効果的な動員と、並立する諸価値を公平に評価しきる誠実さが、もとめられるのである。」（米本 1994） 従って、地球環境問題を考察する時、環境悪化に対する幾つかのステップを乗り越える必要があるだろう。

乗り越えるべき6つのステップ

1. 現在の地球環境変化は人類の生存にとって危険な兆候か、変化の速度はどうか。
2. 変化の主要な原因は人類の活動なのか。
3. 予測される結果はどのようなものか、破局の時期はいつか。
4. 破局回避の可能性はあるか。
5. 最終的に目標となる社会（文明）はどんな社会か
6. 目標にいたる過程でどのような手段、方法が必要か。

以上の6つのステップを検討していくことで、環境問題に対する処方箋は完結する。これらのステップを個人がどの程度認識するかによって、地球環境問題への対処の仕方が個々に違ってくると思われる。

第1に地球環境の変化は既に人類の生存を脅かす危険な兆候となっている。この点は既に温暖化、環境ホルモン、森林の消失等世界的な規模で多くの研究者が指摘していることは周知のとおりであるが、一般的には、日本でどの程度認識さ

れているのだろうか？

1997年に行なわれた朝日新聞の世論調査によると

地球の健康状態はどうかの問いに

地球は重病…7% 病気…57% まあ健康…32% 元気…1%

これから世界で一番不安なことは

1位 地球環境の悪化…40% (20代、30代では50%以上、30代女性60%以上)

2位 経済不況……………21%

地球温暖化に関心がある、多に関心がある。……………86%

地球環境がこの先「一層悪化する」という悲観の見通し……………77%

(20-30代では…80%以上) これに対し改善されるは14%しかない。

経済成長や景気に多少影響がでてでも二酸化炭素の排出量を減らすべきだ…84%

地球環境を守るために生活が不便になっても良い…50% 困る…44%

この結果をどのように考えるかは読者の認識の差によるであろう。

事実この調査でも、世代間で認識に大きな差がある。問題なのは、現在、政治的に指導的な立場にいる60代以上の世代の地球環境悪化に対する危機感が、若い世代に比較して低いことである。悪く言えば60代(50代?)以上の世代はいわば「食い逃げの世代である」。必死に働いて、物を作り消費することが善であり、資源を限りなく使い、物質的に豊かになることが人生の目的であったこの世代が、地球環境悪化に若い世代より関心が低いのは当然なことかもしれない。しかし、この地球規模での環境汚染を広げてきたのは紛れもなくこの世代なのである。この付けを全て負わされるのでは次世代の子供たちは堪らないだろう。

第2に地球環境が将来一層悪化するという悲観的な見方が77%と高く、特に若い世代では80%以上の高率になっていることである。地球環境の将来について多くの日本人の間で、絶望感が広がっているのではないだろうか。一方では、国民の大多数が経済成長に影響がでてでも二酸化炭素の排出量を減らすべきだ(84%)としている。言いかえれば、大多数の人々が少々の痛みを伴ってもこの問題の解決を願っていると考えられる。従って、この絶望感は政策決定に対する不信感と同時に、将来の循環型社会のイメージが明確でないこと、またその実現への確信が持てないことから生まれていると思われる。いずれにせよ、この主要な責任は現在、社会の指導的な地位にいる50-60代の世代が負うべきものだろう。

*1分間の地球環境破壊 [WORLD WATCH Vol.12 NO.4(1999)]

何ということだろう。60秒という砂時計がサラサラ落ちる、その間に地球環境はこれだけ悪化している。しかも、ここに示したのはいくつかの例に過ぎないし、あくまで去年の数字で、去年より今年、今年より来年と悪化のペースはますます

ます速まっていくながい。

1. オーストラリアではサッカー競技場（約7000m²）1ヶ所分の森が消失
2. 世界の熱帯雨林はアメリカンフットボール場（約4000m²）60ヶ所分が消失
3. アメリカ郊外ではスプロール化によって10000m²の農地、森林が消失
4. 世界の土地が0.5平方キロメートルずつ砂漠化
5. 暴風雨等の風水害により570人が避難
6. 飢餓や栄養失調で23人の子供が死亡
7. 農薬中毒で50人が死亡
8. ガンジス川では未処理の下水約930キロリットルが周辺都市より流入
9. 珍しい動物を取り扱うブラックマーケットにより1万9000ドル相当の絶滅の危機に瀕する動植物が売買された。
10. 世界の化石燃料が1分間に燃焼されるエネルギーを地球上の植物によって生産するには1万分（166時間40分）もかかる。